

真田

真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のための月刊フリーペーパー

いきいき♪

生き活き ふるさと通信

第6号 2010年8月15日発行【真田地域に全戸配布】

緊急 提言

“真田の里”のいま・これからを考えよう①

驚愕！真夏の怪！100歳以上高齢者の行方不明者続出を契機に！

驚き、そして孤立に心が痛む

東京都の男・女最高齢者が行方不明であることに端を発した、100歳以上の高齢者の行方不明者が全国で87人。そして、「真田の里」に隣接する長野市でも110歳の最高齢者が所在不明になっています。戦中、戦後の動乱の時代ならいざ知らず。まもなく65回目の終戦記念日を迎えようとしているこの日本、この信州で…。

しかし、それ以上に心が痛むのは、戦前・戦中・戦後の大変厳しい時代を乗り越えられた100歳以上の人達が、家族や親族、隣近所、地域社会との繋がりが絶たれ、孤立してしまっていることです。

昨年の70歳以上で捜索願が出ている行方不明者は、約1万7千人いて、全体の14%を占めると報道されています。さまざまな理由があるにせよ、今回の100歳以上高齢者では、捜索願が出されていないケースがあることにも驚かされました。家族の絆、地域の連帯感は何処に行ってしまったのでしょうか？

実態把握をより丁寧に

各地の最高齢者に対して、知事や市町村長の記念品等の贈呈が生存確認も十分に行われず、事務的に処理されていることにも驚かされます。親の年金をあてにする家族が、死亡を隠して不正受給を続けている事例、入退院を繰り返したり施設や親類宅に身を寄せたりしているケースもあり、民生委員が訪問しても面会を拒

否されることも多い等自治体の実態把握には難しいと報道されています。

医療や介護保険を長期間利用していないといった情報のチェック・共有とともに、民生委員はじめボランティア、地域住民の協力を求めることが必要と思われます。

住み良い“真田の里”づくり

この『真田の里生き活き通信』では、表紙に100歳以上の方、そして未来を担う子ども達の写真を掲載してきました。その人らしく地域の中で生き活きと日々の暮らしができることが私たちの願いです。

今回の事件を通じて、高齢者に限らず、全ての人が、家族との絆、地域とのつきあい・交流の大切さを痛感します。2010年真夏の怪＝高齢者の行方不明。この真田の里には決してあり得ません。しかし、一人暮らし・老夫婦世帯のみならず、認知症になってしまったら……、と考えると、その本人や家族だけでは対応できません。それ故に、日常的に隣近所、地域との交流・支え合いがもっとも重要になります。

皆さんの協力で、そして力を合わせて、“高齢者自慢”、“ふるさと自慢”等、真田の良いところ探しをする中で、高齢者はじめ全ての人達が住んでいて良かった、住み続けたいと言える“真田の里”づくりを進めたいと考えます。

(「ハイブリット・ケアの展開と

新たな地域づくり」ワーキングチーム)

緊急アンケート

今月の
クローズアップ

“真田の里”のいま・これからを考えよう②

高齢者の行方不明者が各地で確認されていることについて、編集部では、真田の里に関わる6人の方に緊急アンケートを行いました。以下は、ご記入いただいた原文です。

- 質問1 各自治体で、確認の取れない高齢者がいることについて、どのようにお考えですか。
質問2 真田の里で、このようなことが起きないために、何が必要とお考えですか。

上田市高齢者介護課 課長 片岡 文夫さん



- 1 当初、新聞で報道された時は、都会の問題と思いましたが、その後全国で同様の問題があることがわかってきました。ご近所づきあいが減っていること、個人情報意識が広がっていることなど、地域でも、また行政においても把握が難しくなっていると感じました。
- 2 上田市では、長寿をお祝いする敬老祝い金の制度があり、100歳以上の皆さんには市の職員が直接お宅を訪問して本人、またはご家族にお渡ししているところですが、大切なことは、地域において、毎日の生活の中で、顔の見える関係づくりにあると考えています。

上田市社会福祉協議会 事務局長 宮之上 孝司さん



- 1 孤独死、無縁社会を象徴する出来事であり、長寿社会の理念とギャップを感じます。杉並区の事例をみても、長女は母と20年以上も連絡を取っていない異常な状況です。年金、祝金が、本人の状況をきちんと確認しないまま支払われていることに驚きを感じます。
- 2 希薄化の現実のなかで、絆と支え合いの仕組みづくりが必要と思います。地域のなかで、声かけ運動、見守り活動、ふれあい生き生きサロン、住民支え合いマップづくり等の地域のふれあい事業を行い、個別ニーズに応える組織を強化し、地域の福祉力を高める必要があると思います。

真田地域包括支援センター 所長 島崎 真知子さん



- 1 家族親族・地域とのつながりが希薄になっている現状に驚きと同時に、寂しく心が痛みます。人ひとりの命の重みは同じはずですが…。どう生き、どう終末を迎えられるのか考えさせられました。あわせて、認知症の方への支援・実態の確認等、今後の課題は山積していると感じます。

◇◇本原 表木にて分譲予定◇◇

本原小まで350m、静かな環境です！
※1区画約100坪の3区画を計画しています。
↓詳しいお問い合わせはこちらへ↓



真田町本原 1967-33(担当:石井)
いきなりホットライン:080-5108-9701
宅地建物取引業:長野県知事(1)第5169号

CAFE & GALLERY
Sean
～茶庵～



日替りランチ 600円<<コーヒー付 700円>>数に限りがあります。
軽食(カレー・ピラフ等)やスイーツもごぞいます。
TEL (0268)72-8100 定休日・日曜日
11:00 ~ 17:00 (ラストオーダー16:30)

広告募集中！ 1か月 3,150円/3か月 6,300円(税込)

2 地域包括支援センターの業務の中の一つでもある、「高齢者の実態把握（自宅訪問）」をし、問題が生じている高齢者に対しては関わりのある皆さんと連携を密に取っていきます。高齢者が増えていく中で、高齢者が（認知症高齢者も含め）住み慣れた地域で安心して過ごしていくには、地域の皆さんの支え合い、見守りが大きな力となることを感じています。できること、できないこと、どんな支援体制がよいのか等・・・一緒に考えていければと思います。

真田民生児童委員協議会 会長 松井 文雄さん



- 1 毎年本人の家庭に訪問して直接お話をしたり、家族の方ともお話しをしているので、安否確認がとれています。また、確認をとれない場合は、自治センター健康福祉課に連絡を取り、確認をしています。
- 2 毎月、福祉委員会を開催して、65歳以上の方々の健康状態について情報交換をしています（守秘義務を守る）。

真田地域長寿会 会長 柄沢 衛さん



- 1 こんなことがあるのだろうかと驚いています。とても考えられません。住民の所在の確認は住民基本台帳が基本なので、あればいるものと判断したと思います。
- 2 ご近所・お互いのつとめとして、声かけや安否確認をしながら、気にかけていきたいと思っています。このようなことが起きないように、長寿会の皆さんと話題にしていきたいです。

社会福祉法人恵仁福祉協会 アザレアンさなだ 総合施設長 宮島 渡さん



その国で生きてきた結果として豊かさのバロメーターが「高齢期」だと言われています。日本は超高齢社会を迎え、永く生きることは達成されたかもしれませんが、しかし、どのように生きたのか、という「生きる質」についてはまだ不十分な国なのでしょう。その結果、100歳という本来であれば長寿を皆で祝う出来事が、老いることが放置され戸籍上の生存によって作られた「架空の長寿」として今回事件が発覚しています。もし、私であったら・・・将来に絶望を抱く残念なことです。

プライバシーの名のもとに孤立する社会、プライバシーの名のもとに放置し無視する社会では、本質が歪んでしまいます。せめて、上田市真田地域ではこのようなことがないように、当たり前と思われてきた「地域のつながり」「相手を気遣う近所づきあい」をもう一度見直し、「一人ではない」というメッセージをお互いが発信して、受けとめあう関係を築いていきたいです。

ニッセイ財団高齢社会先駆的事業「ハイブリット・ケア(地域分散型サテライトケア)の展開と新たな地域づくり」とは

社会福祉法人恵仁福祉協会(高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ)では、平成21年10月26日からニッセイ財団より助成金を受け、標記事業を始めています。子どもからお年寄りまで、また地域で商売や活動をしている人たち全員の“いいとこ取り”をして元気に暮らせる真田の郷にしようという活動です。この通信の発行もその一環です。

あなたのご意見を聞かせて！

「安心した地域を作るためには」どのようなことができるか、また必要なのか、ご意見を編集部までどんどんお寄せください！

●TEL 72-2781 ●FAX 72-4702

●E-mail kawaraban@ued.janis.or.jp

「住み慣れた地域で自分らしくいつまでも」 をみんなで考える会

参加無料

《2025年の地域包括ケアの実現を目指す》

と き 平成22年9月18日(土) 午後6時～8時

ところ 真田公民館(旧真田町文化会館) 第一会議室

内 容

- 事例紹介 「地域で支え合うこれからの日本型モデル」
一般社団法人 24 時間在宅ケア研究会 (神奈川県小田原市)
理事長 時 田 純 氏
- 市議会議員を交えた意見交換会
「みんなが地域で支え合うためには何が必要なの？」



全国での行方不明者続出を、皆さんはどう思われましたか？

みんなが住み続けたいと思える“真田の里づくり”を一緒に考えていきませんか？

地域の将来のこと、お金のこと、仕組みのこと、生活者の意識のこと、などについて、地域住民、行政、サービス事業者、医療・介護・福祉等の専門家、ボランティアなどが、それぞれの立場で考える機会(場所・時間・テーマ)を作り、自分のこととして「語る」ことが必要だと思います。

そこで、地域で支えあう実践をしている先進地域の事例を通して、これから地域に求められる「ひと・もの・かね・しくみ・アイデア」などを、真田地域の上田市市議会議員をお招きして皆さんとざっくばらんに話し合っていたいただきたいと思います。第2弾を企画しました。お誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください！

申込先 「住み慣れた地域で自分らしくいつまでも」をみんなで考える会(担当:大野)
TEL:0268-72-2781 FAX:0268-61-4010(事務局:アザレアンさなだ)

編集後記 今回は、高齢者の行方不明ニュースを受けて、紙面を緊急に差し替えました。事前に取材にご協力いただきました皆様の記事は、来月号に掲載いたします。住民一人ひとりが主役の「真田の里」づくりを進めるべく、今後もさまざまな取り組みをして参ります。皆様からのご意見・ご感想お待ちしております。[編集部一同]

発行元：「真田 生き生きふるさと通信」編集部

事務局：高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ内

〒386-2201 上田市真田町長 7141-1 TEL 0268-72-2781 FAX 0268-72-4702

E-mail kawaraban@ued.janis.or.jp

ホームページ http://www.azarean.jp/Group1/Contents/0402_nissei_kouho.aspx

イベント情報や、通信を読まれてのご意見、ご感想をお寄せください。次号は2010年9月15日の発行です。